

財布の中身

その二

前回に引き続き、財政の状況をもっと身近に感じてもらうため、平成19年度「普通会計」決算をベースに、できるだけ「分かりやすく」、財政状況をお知らせします。今回は、市の普通会計を、家庭の収入と支出に例えてみました。

財政課：TEL224-5618

●家庭の収入と支出に置き換えてみると……

平成19年度普通会計決算額(年額)を月収30万円の家庭(月額)に置き換えました。

* 県平均=県内の人口20万人以上の9市の平均。

* 中核市平均=人口30万人以上40万人未満の中核市16市の平均。

収入(自主=自主財源▶依存=依存財源)

家庭では () 内は決算項目		月額(円)	構成比	県平均	中核市平均
自主	給料(市税)	178,200	59.4%	57.9%	45.7%
	パート収入(使用料・手数料など)	24,900	8.3%	7.3%	8.4%
	貯金をおろす(基金繰入金)	3,300	1.1%	1.4%	2.2%
	前月からの繰り越し(繰越金)	14,700	4.9%	4.7%	2.0%
依存	親から仕送り(国などの補助金など)	55,800	18.6%	22.0%	33.0%
	借金(市債)	23,100	7.7%	6.7%	8.7%
	合計	300,000	100%	100%	100%

○家族の収入(自主財源)は、収入の73.7%(221,100円)で、県平均の71.3%や中核市平均の58.3%と比べると、自力で生活できる割合が高くなっています。

支出(義務=義務的経費▶投資=投資的経費▶その他=その他の経費)

家庭では () 内は決算項目		月額(円)	構成比	県平均	中核市平均
義務	食費(人件費)	66,143	22.8%	23.4%	19.8%
	医療費(扶助費)	49,027	16.9%	15.7%	19.0%
	借金の返済(公債費)	28,140	9.7%	11.7%	13.0%
投資	家の増改築(普通建設事業費)	33,071	11.4%	12.2%	13.5%
	洋服・公共料金など(物件費)	47,576	16.4%	15.0%	12.6%
その他	自治会などの会費(補助費等)	35,392	12.2%	7.2%	7.0%
	子供に仕送り(他会計への繰出金)	20,307	7.0%	11.0%	9.5%
	家財の修理など(維持補修費など)	10,444	3.6%	3.8%	5.6%
	合計	290,100	100%	100%	100%

* 収入と支出の差額9,900円は、翌月へ繰り越します。

○生活に必要な経費(義務的経費)は、支出の49.4%(143,310円)で、県平均の50.8%や中核市平均の51.8%と比べると、生活は少し余裕があります。

貯金と借金の残高

家庭では () 内は決算項目	残高(円)
銀行預金の総額(基金の合計)=①	251,000
①のうち普通預金(財政調整基金)	31,000
借金の総額(市債の合計)	2,999,000

○借金総額(市債の合計)に対し、預金総額(基金の合計)は10分の1以下です。

収入や支出の状況は?

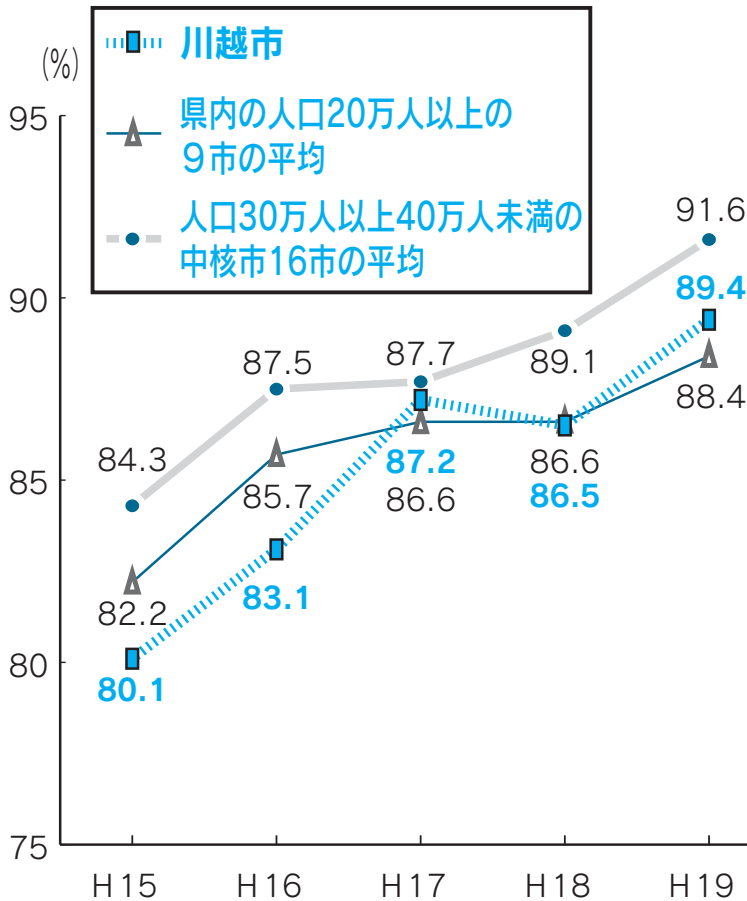
同じような状況の他の家庭(人口が同程度の他市)と比べてみましょう。川越市は、収入では家族の収入(自主財源)の割合が高くなっています。しかし、依然として親からの仕送りなど(依存財源)を必要としています。

また、支出では生活に必要な経費(義務的経費)の割合が少なくなっています。この割合が高くなると、自由に使えるお金が少なくなり、生活が苦しい状態になります。

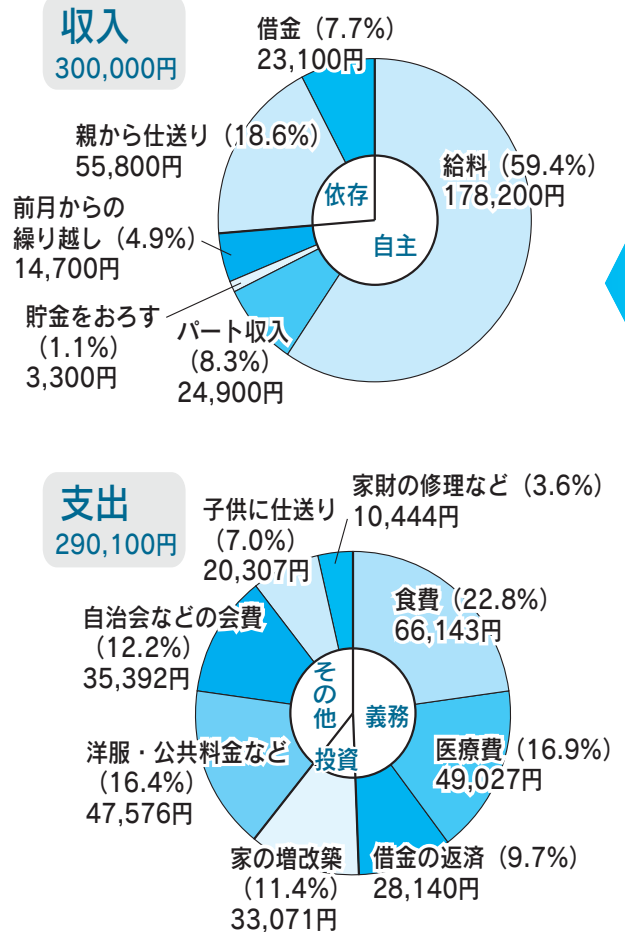
生活は苦しい?

川越市は、他の家庭と比べると、それほど苦しくはないようにも見えます。しかし、どこの家でも家計が苦しい現在、平均以上でも安心はできません。特に、銀行預金の総額(約二十五万円)は、一か月の支出総額(約二十九万円)に満たない状況です。いつでもおろせる普通預金は、月の収入総額の一割程度しかありません。川越市の生活は、ほんとうに苦しくないのでしょうか?

平成15年度～同19年度の経常収支比率の推移

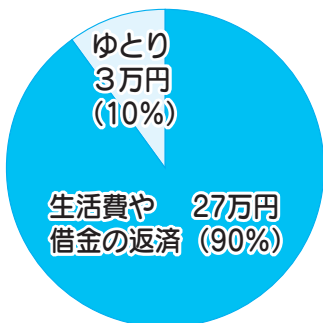


グラフで表すと……

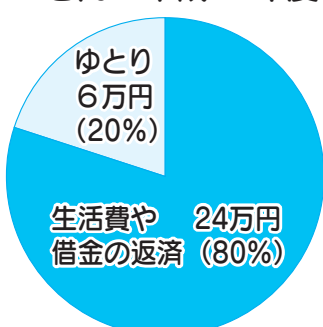


川越市の経常収支比率を給料30万円のAさんとBさんに例えると

Aさん=平成19年度



Bさん=平成15年度



経常収支比率とは？
自治体の財政における弾力性を示す「経常収支比率」というものがあります。これは、市税など使いみちが特定されず、毎年度入ってくる収入のうち、人件費・扶助費・公債費など毎年度支出する経費に充てられた額の割合を示すものです。

家計に例えると、「毎月の給料に對して、生活費や借金の返済がどのくらいの割合を占めているか」ということです。経常収支比率が高いと「自由に使えるお金が少ない」。つまり、急な出費や新たな支出が発生した時にお金が配分できない状態だといえます。この状態を、「財政の硬直化が進んでいる」といいます。経常収支比率を下げるには、市税などの収入を確保し、人件費などの支出を見直していく必要があります。

川越市の財政状況は？
左上のグラフは、経常収支比率の推移を示したものです。経常収支比

率は、80パーセントを超えると要注意といわれています。平成19年度の川越市の経常収支比率は、89・4パーセント。わずかに五年間で9・3ポイントも上昇しています。

左の円グラフは、川越市の経常収支比率を単純化して、同19年度をAさん、同15年度をBさんに例えたものです。生活費や借金の返済の割合が高いAさんは、Bさんより「ゆとり」の割合が低くなっています。つまり、同19年度（Aさん）は同15年度（Bさん）と比べて、自由に使えるお金が少なく、急な出費や新たな支出に対応する余裕がありません。

川越市は、財政の規模と比べて貯金が少なく、かつ財政の硬直化が進んでいるのが現状です。こうした厳しい状況を踏まえ、まずは市の内部の徹底したコスト削減と、収入の確保に努めます。持続可能な財政構造を確立するため、市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。